

親子いけばな体験レッスン「いけばな×コミュニケーション」

作成者：一般財団法人草月会（いけばな草月流）

- 対象者・人数：親子10組 20名（幼稚園児～小学生）
- 所要時間：90分程度
- 対象場所：学校、公共施設など
- 指導者：いけばな講師1名、アシスタント3名

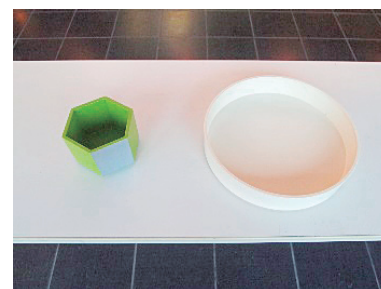


■ 道具

- ・花ばさみ（子ども用・大人用）
- ・花器（子ども用・大人用）
- ・剣山
- ・剣山マット
（なければ新聞紙で代用）
- ・水切り用のボール
- ・ピッチャー
- ・新聞紙
- ・雑巾
- ・包装紙、ひも（持ち帰り用）



花ばさみ（子ども用・大人用）



花器（子ども用・大人用）



剣山

■ 配布資料

- ・いけばなの歴史、基礎知識を簡単にまとめたプリント

■ 花材（春の例）

- | | | |
|------------|-------------------------|-------|
| ・葉もの（子ども用） | はらん・モンステラ・ニューサイラン・たにわたり | など1種類 |
| ・枝もの（大人用） | さくら・れんぎょう・もも・きばなでまり | 〃 |
| ・花（子ども用） | ガーベラ・スイートピー・チューリップ・なのはな | 〃 |
| ・花（大人用） | ばら・スイートピー・アネモネ・きんぎょそう | 〃 |



【指導の目的】

○いけばなで心を伝える

「花はいけたら、人になる」という言葉があります。
 いけばなには、いける人の心そのままあらわれるということです。
 大切な人をおもてなしするために、
 大好きな人に想いを伝えるために、
 哀悼の気持ちを表現するために、
 命ある植物にふれ、その尊さを感じ取りながら、私たちは自分の心を花に託して表現してきました。
 日本が古来より豊かな自然の中で育んできたこの繊細な感受性を、末永く未来に伝えていく
 ために、親子がともに花をいけ、その楽しさ、すばらしさを実感してもらいたいと考えます。

○花を介したコミュニケーション

花をいける行為は誰かに何かを伝えるというコミュニケーションの手段でもあります。
 家庭に飾られた花は、暮らしに潤いをもたらし、家族の会話のきっかけにもなります。
 花を介して、親が子どもに、子どもが親に感想や想いを伝え合い、感動を共有する。い
 けばなを通して、花で自分のおもいを表現する喜び、コミュニケーションを取る楽し
 さ、命ある植物に寄り添う感動を体験してもらいたいと思います。

【対象者への配慮】

リラックス・集中できる環境づくり

- ・初めていけばなを経験する人がほとんどなので、緊張をほぐすように心がけ、講師やアシスタントが積極的に声掛けし、気軽に質問しやすい雰囲気を作る。
- ・待ち時間にBGMを流すなどリラックスできる環境づくりを工夫する。

けがや事故がないよう配慮する

- ・道具の扱い方や花材の説明はなるべくゆっくりとていねいに行う。
- ・花材は硬くて切り難いものや、子ども用にはとげのあるもの、匂いの強いものは避ける

全員が平等に

- ・一部の参加者だけにかかりきりにならないように参加者全体に目を配る。
- ・講師の説明やデモンストレーションがどの席からも見やすいように教室をレイアウトする。
- ・教室が広い場合は後ろまで声が届くように意識するかマイクを使用する。

空間的なゆとりの確保

- ・ゆとりを持ってのびのびといけられるように一人ずつのスペースを十分にとり、可能なら出来上がった作品を少し下がって見られるように机を配置する。

名札の着用

- ・講師、アシスタントは名札を着用する。可能なら参加者にも名札を着けてもらい（子どもは下の名前）、名前を呼びかけながら指導できるようにする。



■ 事前の準備

【会場となる施設、備品の確認】

- ・教室の広さ、イスや机の高さ、大きさ、個数が参加者の人数や年齢層にふさわしいかを確認する。
- ・水場、ゴミの廃棄方法の確認（近くに水場があることが望ましいが、ない場合は汲み置きを用意する）

【参加者名簿、名札の作成】

- ・可能なら子どもの年齢を事前に確認し、年齢層にばらつきのある場合は、進行に十分配慮する。

【講師とアシスタントとのミーティング】

- ・参加者の情報を共有する。
- ・スケジュールを確認し、道具の使い方・花材の知識・見本花のデモンストレーションの内容を検討する。

【道具類の準備、花材の発注】

- ・急な変更やアクシデントに備えて、可能なら予備も用意する。

■ 当日の準備

- ・机、イスなどのセッティング。
- ・道具類、花材の確認・セッティング。
- ・見本花のデモンストレーションの準備。
- ・受付の準備。



机、イス、道具類のセッティング

■ タイムスケジュール

受付



あいさつ、スケジュール説明 (5分)



見本花デモンストレーション (15分)



子どもの作品づくり (20分)



大人の作品づくり (20分)



作品講評 (15分)



総評 (5分)



片付け (10分)



終了

(後片付け)



見本花デモンストレーション

■ 当日のプログラム

1 受付

名前を確認し、名札を渡す。親子で並びの机に着席してもらう。

花器、剣山、はさみ、資料用プリント、雑巾はあらかじめ机にセットしておく。

2 あいさつ

講師、アシスタントの紹介。

3 簡単な趣旨説明とタイムスケジュールの説明

4 いけばなとは？

いけばなに用いる道具類の説明。

いけばなの基本的な技術の説明。

- ・はさみの使い方
- ・枝の切り方、草ものの切り方
- ・花器の扱い方
- ・剣山の使い方
- ・水切りについて など



講師、アシスタントの紹介

5 講師による見本花のデモンストレーション（4の説明と平行しておこなっても良い）

①子ども用の花器と花材を使用して

葉ものと花…葉ものは手で裂いたり丸めたりして、自分なりの形表情を作ることができることを示す。



②大人用の花器と花材を使用して

枝ものと花…枝ものをためる方法など。

③自由花（いけばなの魅力を伝えるため、高度な技術や様々な花材を用いた作品）

6 花材の配布…可能なら数種類の中から選んでもらうようにする。

7 植物をよく見つめ（かたち・色・手触り・匂いなど）、その植物の魅力を探す。

8 花材の萎れているものなどを整理する。

9 子どもの作品づくり（親は子を見守り、集中をとぎらせることのないように注意する）

10 大人の作品づくり（子どもは葉を取る、水をさすなどの簡単な作業を手伝う）



子どもの作品づくり



大人の作品づくり



講師による講評

11 いけ終わったら、作品のまわりを片付け整える。

12 完成した組から、講師が1作ずつ講評する。

講師が一方向的に話すのではなく、参加者の感想や質問などを引き出し、親子でも感想を伝え合うように促す。

13 講師より総評

参加者数名に感想を伺う。

- 14 アシスタントより、片付けの説明（道具のしまい方、花の包み方など）
片付け、終了
- 15 スタッフによる後片付け（備品、道具などの片付け、ごみの処理、掃除）

■ 指導上のポイント

○自由な発想を大切に

体験レッスンでは「花をいけるのはたのしいこと」と感じてもらうことを最優先にする。決まりごとにとらわれすぎず、特に子どもたちがのびのびと自由な発想でとりくめるように配慮する。大人には理論を求める人もいるので、臨機応変に型や規則などの説明を補足するなどの対応も必要である。

○良いところを見つける

大人でも子どもでも、ほめられることでやる気ができるもの。まず良いところ、すてきなところを見つけて声掛けする。

○親が子どもに干渉しないように注意する

子どもの自主性を育むために、親が子どもの作品に干渉しないように注意し、目に余るケースはやんわりと声がけする。

○視線を子どもに合わせる

子どもを指導する時は、一人ひとり向き合うようにして名前呼びかけ、視線を子どもに合わせて指導する。

- #### ○子どもが考えたことを言葉にできるように、子どもには一番好きなおもしろいところ、なぜこうしたかったかをたずねる。この花のどこに惹かれ、何を一番みせたかったのか。その子なりに考えたことを言葉にしてもらう。花をいけることは、自分を表現する術であることを実感してもらう。

○大人には日々実践できる花の知識を伝える

大人には暮らしの中で手軽に実践できる花の飾り方やコツ（花束をいけ直すテクニック、食器など身の回りのものを器に利用することなど）をデモンストレーションや指導の際に伝え、家庭に花を取り入れるきっかけにしてもらう。



講師による総評



■ いけばな体験レッスン

生活環境が変わり、従来いけばなが飾られていた床の間が住まいから姿を消しつつある現代は、言い方を変えれば、いけばなが床の間から開放され、どこにでもいけばなが存在できる時代になったとも言えるのではないのでしょうか。

いけばながより身近な存在となって、植物に触れる機会を増やすことは、子どもの感性を培う契機となり、家庭内のコミュニケーションを円滑にする役割を果たすことにもつながります。

日本に脈々と受け継がれてきた伝統文化・いけばなは、グローバル化する現代にこそ日本人が日本人であるために身につけるべき大切な教養ではないのでしょうか。

親子いけばな体験レッスンが、いけばなを知り、学ぶきっかけとなることを願っています。

